

エコアクション21
2020年6月期
環境経営レポート

【期間：2019年7月1日～2020年6月30日】

作成：2020年8月7日

修正：2020年9月16日

株式会社キャロットシステムズ

1. 組織の概要

(1) 事業所名および代表者名

株式会社キャロットシステムズ

代表取締役 西澤 勇司

(2) 所在地

〒252-0231

神奈川県相模原市中央区相模原四丁目7番10号

エス・プラザビル1階

(3) 環境管理責任者氏名および担当者連絡先

責任者：佐藤 時弘 【環境管理責任者】

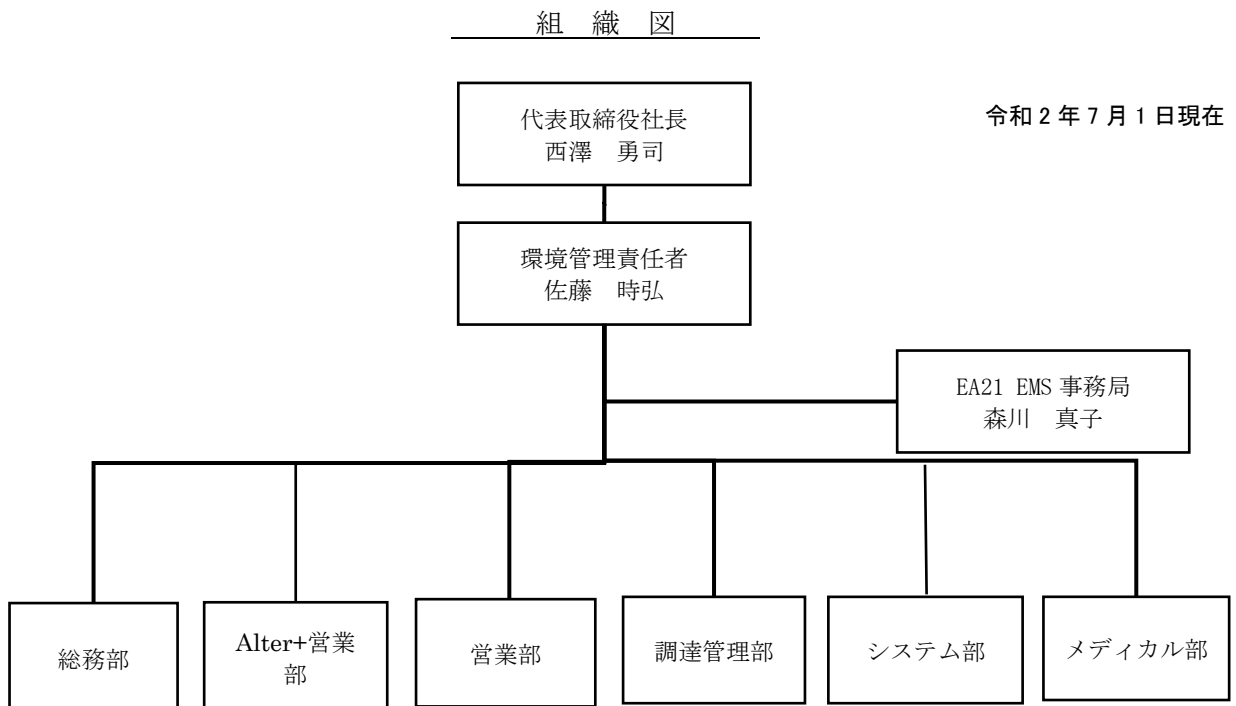
事務局：森川 真子 【EA21 EMS事務局】

連絡先：TEL 042-750-0007

FAX 042-750-0005

URL <https://www.carrotsys.co.jp>

Email info@carrotsys.co.jp



【図1】

(4) 事業活動の内容

- ①電子応用装置ならびにコンピュータ応用装置の設計・製造
- ②防犯機器ならびに監視機器の設計・製造
- ③医療機器の設計・製造

(5) 事業の規模

【表1：売上高と従業員数の推移】

項目	単位	2018年6月期	2019年6月期	2020年6月期
売上高	千円	554,816	600,918	575,267
従業員数	人	26	26	29
床面積	m ²	348	348	385

※従業員数には代表者を含む、非常勤取締役を含まない。

2. 対象範囲

当社事業活動の全組織、全活動、全従業員

活動レポートの発行日 2020年8月7日

次回レポートの発行予定日 2021年8月頃

3. 環境経営方針

環境経営方針

当社は、電子応用装置ならびにコンピュータ応用装置の設計・製造、防犯機器ならびに監視機器の設計・製造、医療機器の設計・製造等の事業活動を行っております。

当社はかけがえのない地球の一市民として、我々の事業活動が環境に影響を与えることを認識した上で、“環境と企業活動の調和”を求め、環境に対して保全と汚染予防に努め、継続的改善を推進します。

1. 環境に関する法的要求事項およびその他の要求事項を順守します。
2. 当社の行う企業活動、製品・サービスが環境に与える影響に対して、以下の事項を重点に据えて環境保全、汚染予防を推進します。
 - ①環境に配慮し環境負荷低減に寄与する製品づくり
 - ②省エネルギーおよび省資源の推進
 - ③廃棄物の削減、リサイクル・リユースの推進
 - ④グリーン購入の推進
3. 環境負荷低減活動への参加と実践をします。
4. これらの方針を達成するために環境目標を定め、継続的改善を行います。

この環境方針は全従業員および当社内で働くすべての人に周知徹底し、環境意識の高揚に努めます。

制 定：2008年 5月17日
改定1：2012年 7月 1日
改定2：2013年 7月 1日
改定3：2015年 7月 1日
改定4：2018年 8月20日

株式会社キャロットシステムズ
代表取締役 西澤 勇司

4. 環境経営目標

当社では、環境負荷の低減のために下記の目標を掲げて活動を行いました。

項目	19年6月期	20年6月期	20年6月期	中長期	中長期	中長期	中長期
	実績	目標	改善率	21年6月期	21年6月期	22年6月期	22年6月期
	18/7-19/6	19/7-20/6	対19年6月期	目標	改善率	目標	改善率
①環境に配慮し環境負荷低減に寄与する製品づくり							
1 非ラミネートパッケージ製品の新規導入	2機種	2機種	-	2機種	-	2機種	-
2 不良率の削減	3.4%	2.8%	-	2.7%	-	2.6%	-
②省エネルギー及び省資源の推進							
1-1 電力使用量(kwh/年)	38,775	38,581	0.5%	38,387	1.0%	38,193	1.5%
1-2 電力使用量(kwh/年・人)	1,491.3	1,484.0	0.5%	1,476.0	1.0%	1,469.0	1.5%
2-1 ガソリン使用量(l/年)	6,053	6,023	0.5%	5,992	1.0%	5,962	1.5%
2-2 ガソリン使用量(l/年・売上(億円))	1,007	1,002	0.5%	997	1.0%	992	1.5%
3-1 車の燃費管理(l/km)	14.2	14.3	0.5%	14.3	1.0%	14.4	1.5%
4-1 CO2排出量(kg/年)	32,432	32,270	0.5%	32,108	1.0%	31,946	1.5%
4-2 CO2排出量(kg/年・売上(億円))	5,397	5,370	0.5%	5,343	1.0%	5,316	1.5%
③廃棄物の削減、リサイクル・リユースの推進							
1 ゴミ排出量(一般ゴミ)(kg/年)	531	515	3.0%	510	4.0%	510	4.0%
④グリーン購入の促進							
1 グリーン購入	3品目	3品目	-	3品目	-	3品目	-
⑤環境負荷低減活動への参加							
1 参加活動の調査	-	参加活動を調査検討する。					
2 社員のエコ検定の合格率	69.2%	71.3%	3.0%	73.4%	6.0%	76.1%	10.0%

※1 CO₂排出量は、環境省 WEB サイトにて公開されている「別表1 環境への負荷の自己チェック表」を利用し、適切な排出量係数を用いて、電力使用量、自動車に用いるガソリン使用量の排出量の総計として算出しました。但し、2017年5月より電力使用量は入居テナントと共用で変動係数による案分のため、参考値として掲示することとし目標値として管理しないものと変更しました。

※2 当社の入居施設は、上水道、下水道共に入居テナントと共用で人数按分されているため、水の使用に関して定量的な目標設定は出来ません。但し、節水表示をするなどして節水に努めています。

※3 化学物質の使用はありません。なお、お客様の指定がない限り、半田は無鉛半田を使用しています。

5. 環境経営計画

環境経営計画 (環境経営目標から)	実施項目	実施 時期	担当者
① 環境負荷低減に寄与する製品づくり	1. 量販用標準品でない商品は、白箱にラベル表示とし、簡易パッケージとする。 2. 不良率集計手法の確立	通年 通年	Alter+営業部
② (1) 省エネルギー及び省資源の推進のため、電力使用量の削減を図る。	1. 全社員を対象にした実施計画説明と教育 2. 不在箇所の消灯励行 3. エアコン設定温度の周知と徹底 4. クールビズのガイドライン制定と実践	9月 通年 通年 5~10月	佐藤 全員 全員 全員
② (2) 省エネルギー及び省資源の推進ため、ガソリン使用量の削減を図る。	1. エコドライブ10ヶ条の社員教育(年1回以上) 2. 車両別ガソリン使用量の把握 3. エコカー台数及び使用率の向上	7月 通年 通年	佐藤 篠崎 西澤
③ 廃棄物の削減、リサイクル・リユースの推進のため、ゴミの軽量化を進める。	1. 3Rに関する社員教育 2. 着荷した緩衝材における「ゴミ⇒梱包資材」への転換 3. ダンボール素材の選別廃棄 4. 飲料及び弁当容器等生活ゴミの各自持ち帰り	7月 通年 通年 通年	佐藤 調達管理部 (同上) 全員
④ グリーン購入の推進を図る。	グリーン購入法適合商品やエコマーク、GPNDB(グリーン購入ネットワークデータベース)掲載商品の購入割合を計画して適正な購入に努めます。	通年	総務部
⑤ エコ検定受験(環境負荷低減活動への参加)	環境意識を高めて実践するために、「エコ検定」にチャレンジし、全員合格するまで受験する。	7月	全員
⑥ 水使用の抑制	当社の入居施設は、上水道、下水道共に入居テナント共用で人数按分となっており、定量的な目標は立てにくいですが、社内給湯室の水使用は極力控え、ステッカーを貼り節水を励行する。	通年	全員

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

環境経営計画 (環境経営目標から)	主な活動実施の内容	活動 評価 *	コメント
① 環境負荷低減に寄与する製品づくり	1. 量販用標準品でない商品は、白箱にラベル表示とし、簡易パッケージとする。 2. 不良率集計手法の確立	○ ○	
② (1) 省エネルギー及び省資源の推進のため、電力使用量の削減を図る。	1. 全社員を対象にした実施計画説明と教育 2. 不在箇所の消灯励行 3. エアコン設定温度の周知と徹底 4. クールビズのガイドライン制定と実践	○ ○ ○ ○	日に数回の確認を行う
② (2) 省エネルギー及び省資源の推進ため、ガソリン使用量の削減を図る。	1. エコドライブ10ヶ条の社員教育(年1回以上) 2. 車両別ガソリン使用量の把握 3. エコカー台数及び使用率の向上	○ ○ ○	安全運転のPRと併せて実施
③ 廃棄物の削減、リサイクル・リユースの推進のため、ゴミの軽量化を進める。	1. 3Rに関する社員教育 2. 着荷した緩衝材における「ゴミ⇒梱包資材」への転換 3. ダンボール素材の選別廃棄 4. 飲料及び弁当容器等生活ゴミの各自持ち帰り	○ ○ ○ ○	コロナの影響があったため今後を注視
④ グリーン購入の推進を図る。	グリーン購入法適合商品やエコマーク、GPNDB(グリーン購入ネットワークデータベース)掲載商品の購入割合を計画して適正な購入に努めます。	○	
⑤ エコ検定受験(環境負荷低減活動への参加)	環境意識を高めて実践するために、「エコ検定」にチャレンジし、全員合格するまで受験する。	○	事前の準備を周知する。
⑥ 水使用の抑制	当社の入居施設は、上水道、下水道共に入居テナント共用で人数按分となっており、定量的な目標は立てにくいですが、社内給湯室の水使用は極力控え、ステッカーを貼り節水を励行する。	○	ビル全体で取組む必要がある。

*活動評価は「主な活動実施の内容」の評価です。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営目標及び環境計画

(1) 1年間の結果

環境目標項目	年度目標	年間実績 (19年7月～20年6月)	評価
①-1 白箱にラベル表示とした簡易パッケージ	2機種	2機種	○
①-2 不良率の削減（不良率集計手法の確立）	2.8%	3.4%	×
②-1-1 電力使用量の削減	38,581kWh/年	41,208kWh/年	×
②-1-2 電力使用量の削減	1,484kWh/年・人	1,421kWh/年・人	○
②-2-1 ガソリン使用量の削減	6,023ℓ/年	5,349ℓ/年	○
②-2-2 ガソリン使用量の削減	1,002ℓ/年・億円	930ℓ/年・億円	○
②-3-1 車の燃費管理	14.3km/ℓ	14.1km/ℓ	×
②-4-1 二酸化炭素の削減	32,270kg/年	31,447kg/年	○
③-4-2 二酸化炭素の削減	5,370kg/年・売上（億円）	5,467kg/年・売上（億円）	×
③ゴミの軽量化	515kg/年	450kg/年	○
④グリーン購入	3品目	3品目	○
⑤社員のエコ検定の合格率	71.3%	69.0%	×

※購入電力の炭酸ガス排出係数 年間実績：0.462kgCO₂/kWh

【考察】

- (1) 環境負荷低減に寄与する製品づくりについては、量販用標準品でない商品は、白箱にラベル表示とし、簡易パッケージとすることに取り組み目標が達成でき、不具合品の削減は、不具合品の集計ルールに則り数値評価を行ったが達成できなかった。
- (2) 電力使用量は目標値としての管理対象から外れたため、参考値としての記録です。
なお、電気使用量の増加の大きな要因は、2019年7月に事務室の増床があったためのものです。
- (3) ガソリン使用量の削減及びゴミの軽量化の目標値の達成は、新型コロナウイルス感染症防止のための一部休業が行われたことなどが影響したものです。
- (4) 上記(2)及び(3)の状況の中、二酸化炭素の年間目標は達成できたが、売り上げに対する二酸化炭素の削減について達成できなかったことは、新型コロナウイルスの影響により売上が低下したためのものです。

E A 2 1 EMS事務局 森川 真子

【次年度の取組み内容】

- (1) 環境負荷低減に寄与する製品づくりについては、量販用標準品でない商品は、白箱にラベル表示とし、簡易パッケージとする取組みを進め、費用とエネルギー消費の削減を図っていき、目標値を2機種とします。また、不具合品の削減は、引き続き不具合品の集計ルールに則り、数量の把握と削減を進めて行きます。
- (2) エネルギー使用量については、単位売上あたり又は従業員一人当たりの指標を導入し利用効率を評価できる指標としました。また、施設の増床があったため、今期は増床を含んだ目標値の設定を行います。
 - (ア) 電力消費量削減では、照明のLED化を進め、安定した電力消費量の削減を行っております。空調については、サーキュレーターを導入して、使用エリアのヒートスポット及びコールドスポットを無くして空調設備の効率的な稼働を目指します。
また、節電等の省エネを担当別に行うこととし、エネルギーの効率的利用を徹底していきます。なお、電気使用量の削減は、入居テナントによる案分で割当てられるため、入居するビル全体で取り組むように提案していきます。
 - (イ) 燃料消費量削減では、ハイブリット車を優先的に利用して、効率的な営業活動を心がけ営業車両の運用効率を高めます。
また、社員ひとり一人の意識改革を図るため、エコ運転の推進を更に行います。
- (3) ゴミ排出量の削減では、引き続きリサイクルを進め、排出量を増やさないように努めるとともに、分別回収ボックスの適正配置などにより、ごみの分別を更に徹底していきます。
- (4) ガソリン使用量及びゴミ排出量の実績は、新型コロナウイルス感染の影響を受け低い数値となっていますが、今後も社会情勢が不透明な状況が想定できるので、今年度の目標値は前年度の実績を基に設定します。
- (5) グリーン購入法適合商品やエコマーク、GPADB（グリーン購入ネットワークデータベース）掲載商品の適正な購入に努めます。
- (6) 環境団体等と協働することにより、日常生活や事業活動の中で取り組める具体的な地球温暖化防止等の活動の情報を習得し、業務等に反映していきます。
- (7) 全社員参加意識の継続が課題でもあり、定期的な教育、全社員エコ検定合格を目指して、環境に対する意識を高めて行きます。

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

2020年7月21日に代表者が環境関連法規への違反および訴訟等の有無の確認を行いました。

- (1) 環境関連法規について、過去3年間、現在に至るまで法律違反はございません。
- (2) 環境に関わる訴訟に関しても、過去3年間、現在に至るまでございません。

2020年7月21日
株式会社キャロットシステムズ
代表取締役 西澤 勇 司

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

電気使用量及び営業車の平均燃費が達成できませんでした。

電気使用量の増加については、2019年7月に事務室の増床があったことが主な理由であるため、今期は新たな目標を設定し取り組んでいきたい。また、使用量が入居テナントによる案分で割当てられるため、当社独自の取り組みだけでは達成が困難なファクターであるため、ビル全体で取り組むようにしたい。

なお、ガス式エアコンなどは老朽化し燃料効率が悪くなっていることから、ビルオーナー様とも新設の交渉を行い、省エネルギー効果を図ることを検証中です。

ガソリン使用量及びゴミ排出量の目標値達成については、新型コロナウイルスによる弊社の売上高の低下と感染予防対策のための一部休業の影響を受けたものとなっているが、新型コロナウイルス感染症が収束する様子がなく社会情勢が不透明な状況が想定できるので、今年度の目標値は前年度の実績を基に設定する。

環境保全等の推進を図るには、エネルギーの効率的利用やごみの分別の徹底化を図ることが必要と考えるので、引き続き会社全体で取り組んでまいります。

また、環境保全の推進には、地域との連携が有効的と考えますので、環境団体等と協働することにより、日常生活や事業活動の中で取り組める具体的な地球温暖化防止等の活動の情報を習得し、業務等に反映していきます。

なお、2020年7月からS I C 2に50.2㎡の増床が図られているが、電気設備等の利用状況が不明で直ぐに環境経営計画等に組み入れることできないため、オーナー様と調整し次年度からの取組に反映していきたい。

2020年8月7日
株式会社キャロットシステムズ
代表取締役 西澤 勇 司